

やまがた認知症カフェ通信 2026 5月号

令和8年5月15日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

～認知症の正しい理解の推進～

令和7年における本県の認知症高齢者数は、約4.8万人と推計されており、認知症予備群と呼ばれる軽度認知障害（MCI）を合わせた高齢者数は10万人を超えます。これは本県高齢者の約3人に1人に当たります。

認知症の人やその家族等が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、県民一人一人が認知症への理解を深め、共生社会を目指す中で、認知症の有無に関わらず、同じ社会の一員として地域を共に創っていくことが必要です。

県及び市町村は、認知症についての知識の普及促進の一環として、認知症の人やその家族等を温かく見守る応援者である認知症サポーターの養成を行っています。認知症サポーターとは、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人や家族に対してできる範囲での手助けをする人のことで、令和8年3月末現在、県内で約18.6万人のサポーターが養成されています。

認知症高齢者の数は今後ますます増えることが予想されており、共生社会の実現を推進するための基盤である基本的人権及びその尊重についての理解を推進し、そのうえで、「新しい認知症観」の普及が促進されるよう、認知症の本人発信を含めた情報発信等により、県民一人一人が認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深めるための施策を推進してまいります。（山形県高齢者支援課）



さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

ボッチャとモルックで広がる交流の輪

さくらんぼカフェでは、地域の皆さんが気軽に集い、交流できる拠点になることを目指しています。その取り組みの一つとして、ボッチャとモルックを導入しました。ボッチャとモルックは、どちらも年齢や体力に関係なく、座ったままでも楽しめるスポーツです。実際に体験して感じた、それぞれの魅力をご紹介します。

ボッチャは白い目標球（ジャックボール）に、自分のボールをどれだけ近づけられるかを競うスポーツです。投げ方は自由で、相手の球はもちろん目標球も弾いて移動させることができるので、いかに目標球に自分のボールを近づけられるか狙いながら投げる楽しさがあります。展開が読めないのが、最後まで目が離せません。

モルックは、北欧生まれのゲームです。モルックと呼ばれる木の棒を投げ数字の書かれたピンを倒して、先に50点獲得を目指します。ピンが倒れた時の爽快感があり、ボーリングのような感覚で気軽に楽しめます。また、倒れたピンの点数の計算が必要なので、脳トレしながら楽しく遊ぶことも魅力です。

さくらんぼカフェでは、ボッチャとモルックを通じて交流の輪が広がり、ゆくゆくは「さくらんぼカフェ杯」が開催できればと考えております。

ぜひお気軽に体験しにいらしてください。

（大瀧）



認知症があっても、安心できる飯豊町を目指して。 (令和7年度の取組みと今後の展望)

「近所の〇〇ちゃ、最近同じ服着てるなあ。」「最近うちのじいちゃん物無くすようになったなあ。」ささいな変化を最初に気づくのは、普段の姿を知る近所の方や同居する家族など、家庭や地域の目が大半であると感じます。

令和7年度も、その貴重な「目」で、援助となる「手」に確実につながるような取り組みを目標に、「民生委員・児童委員」と「中学生」のみなさんを対象に認知症の理解やかかわり方の普及事業に取り組んでまいりました。4月24日、民生委員・児童委員を対象とした研修「認知症の方とのかかわり方～つなぎ役として、地域包括支援センターとの挑戦～」を開催し、民生委員さんが目にするであろうささいな変化等、事例をまじえながら、「つなぎ役」としてかかわっていただくことの重要性について講演させていただきました。



2月5日・16日、飯豊町社会福祉協議会主催のもと、飯豊町立飯豊中学校の2年生の皆さんを対象に認知症サポーター養成講座を開催し、あらたに54名のサポーターが養成されました。中学生の発想は新鮮で、かかわり方ひとつで、早期支援に有効な一員であることあらためて実感させられた講座となりました。令和8年度は、第10期飯豊町介護保険事業計画策定年度でもあります。地域の中核機能をもつ「地区まちづくりセンター」との協働を軸に、自分が安心して認知症を迎えられる、あるいは安心して支えられるまちづくりを目指せるような仕組みづくりに努めていきます。「やっぱり、飯豊でしあわせになる。」誰もがしあわせであるよう、あたたかい目と手、心ある町をめざして。

(飯豊町地域包括支援センター 手塚裕樹)

インフォメーション

ホットな話題をお届けします！

～おれんじサポートチームころより認知症カフェのご案内です～

土曜の午後のちえでってカフェ

日時：6月6日 14時～15時30分（毎月第1土曜日）

場所：大島医院4階ホール

参加費：100円 申し込みは不要です



認知症カフェ【土曜の午後のちえでってカフェ】はオランダスタイルの認知症カフェを継承しています。認知症カフェの基本を大切にしつつ、認知症の本人やその家族だけではなく、広く多くの人に向けて認知症を知ってもらい、その偏見をなくし、みんなが対等な関係で過ごせる場所です。

お茶を飲みながらゆっくりと語り合いませんか？

～オランダスタイルの認知症カフェについて～

認知症カフェは1997年にオランダで始まったアルツハイマーカフェを源流としています。認知症の人や地域の人を対象にした場であり、認知症になっても暮らしやすい地域を作るための拠点となるカフェです。

令和8年度
認知症カフェ運営者等情報
交換会・出張交流会の
お知らせ

【情報交換会】

今年度も4地域で開催予定です。
詳細は今後ご案内させていただきます。

【出張交流会】

皆様のカフェにさくらんぼカフェのスタッフが伺います。出張交流会をご希望のカフェがありましたら、どうぞご連絡ください。

発行元：山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ 山形県認知症コールセンター(山形市 県小白川庁舎内)

電話・来所相談・カフェオープン 月曜～金曜日 昼12時～午後4時

TEL 023-687-0387 FAX 023-687-0397 E-mail kazokunokai@camel.plala.or.jp

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。